

富山大学サイトが『全国大学サイトユーザビリティ調査』で受けた評価

総合情報基盤センター 技術補佐員 遠山和夫・内田並子

富山大学のウェブサイトが、大学サイトの使いやすさを客観的に調査する『全国大学サイト・ユーザビリティ調査 2008/2009』において、全国の国公立 200 大学サイト中第 4 位(国公立 100 大学中第 2 位)という評価を受けた。この調査で評価された点について解説する。

キーワード： 大学, ウェブサイト, ユーザビリティ, 評価

1. 富山大学ウェブサイトが全国 4 位の評価を受ける

2008 年 12 月 5 日に公表された『全国大学サイト・ユーザビリティ調査 2008/2009』(日経 BP コンサルティング社)¹⁾において、富山大学ウェブサイト²⁾(以下、本学サイト)が、全国の国公立 200 大学中総合第 4 位(国公立 100 大学中総合第 2 位)の評価を受けました。

この評価の対象となった本学サイトは、総合情報基盤センターによって制作・更新が行われており、総務部広報グループ、学務部入試グループ等とも連携しながら、学内担当者のみで管理・運営されています。

サイトの制作・更新業務を担当している私たちは、これまでも「より使いやすい」本学サイトを目指して検討を重ね、サイトの改善を図ってきましたが³⁾⁴⁾⁵⁾、現行サイトの運用を開始した 2005 年から今日にいたる 3 年目にして、全国大学サイトの上位 4 位(国公立大では 2 位)という高い評価を受けることができました。過去 3 年間の本学サイトの結果は、以下の表 1 の通りです。

調査年	総合順位 国公立 200 校中	総合順位 国公立 100 校中	総合スコア
2008/2009	4 位	2 位	81.96
2007/2008	19 位	6 位	61.07
2006/2007	91 位	37 位	42.50

表 1: 『全国大学サイト・ユーザビリティ調査』における過去 3 年間の本学サイトの評価

総合順位では、現行サイトが最初に評価対象となった 2006/2007 年版の 91 位(国公立大では 37 位)と較べて、今回の 2008/2009 年版では 4 位(2 位)と大きく順位を上げただけでなく、総合スコアでも 42.5 点から 81.96 点と約 2 倍近くに得点を伸ばし、調査が始まって以来の最高スコアとなりました。

ここでは、本学サイトが評価を受けた『全国大学サイト・ユーザビリティ調査』についてと、今回行われた 2008/2009 年版の調査によって本学サイトのどのような点が評価されたか、という点について解説を行います。

2. 『全国大学サイト・ユーザビリティ調査』

日経 BP コンサルティング社によって行われている『全国大学サイト・ユーザビリティ調査』は、大学サイトのユーザビリティ(使いやすさ)を様々な観点から横断的に評価する調査で、2004 年から行われており(第 1 回は 2004 年版、第 2 回は 2005 年版、第 3 回は 2006/2007 年版、第 4 回は 2007/2008 版)。今回の調査は、第 5 回目となる 2008/2009 年版です。

近年の急速なインターネットの普及は、多くの受験生や研究者、さらには在学生や教職員などが大学の情報を得ようとするとき、その情報源としての大学サイトの重要性を高めています。しかし、もし大学サイトに有益な情報が掲載されていたとしても、その情報をサイト内から探し出すことが難しかったり、また、サイトを表示する環境や閲覧する人の状況によってサイトそのものが見えにくいといった場合には、せっかく掲載された情報の意味が無くなってしまい、大

学にとっても大きな損失であるといえます。

大学は公的な機関であり、研究や教育の情報を学外に対して発信していく使命を持っていますが、上に述べたような理由からも、大学サイトが「いかに使いやすいか」「多くの人にとって情報を得やすいか」ということが第一に求められるといえるでしょう。

この調査では主として、この「サイトの使いやすさ」つまり「ユーザビリティ」を中心として、全 62 項目にわたる調査が行われました。これらは大きく分けて以下の 6 項目に分類され、それらの評価スコアを合計したものが総合スコアです。

- 1) トップページ・ユーザビリティ
- 2) サイト・ユーザビリティ
- 3) メインコンテンツへのアクセス
- 4) アクセシビリティ
- 5) インタラクティブ
- 6) プライバシーポリシー

これらの評価を行う基準は、インターネット技術の標準化団体である W3C (World Wide Web Consortium)⁶⁾、ウェブサイトのアクセシビリティについてのガイドラインを提唱する W3C の内部組織である WAI (Web Accessibility Initiative)⁷⁾、JIS X8341⁸⁾などに基づいて定められており、おもに客観的に判断できる項目だけが評価の対象になっています。したがって、サイトの内容そのものやデザインの芸術的なセンスといった要素は判断されません。

判定は数値化され、合計 100 点になるように配点されています。また、本調査の報告書では、具体的な判定結果を参照することができます。以下、各項目について本学サイトが受けた評価について紹介します。

3. 各項目での評価

3.1. トップページ・ユーザビリティ

トップページの使い勝手を評価する項目で、本学のスコアは 10 点満点中 7.89 点でした。本学サイトのトップページは **図 1** で、ウェブサイトの各ページの中では多くの訪問者が最初に訪れる可能性が高い、サイトの玄関ともいえるような重要な位置を占めています。

このページには、様々な目的を持って訪れる人たちが迷わずに、目的とする情報にたどり着けるよう、「受験生」「地域・企業」「卒業生」「在学生」「教職員」という、訪問者別の目次へのリンクが設けられています。

また、マウスを載せたときにメニューが展開する「ロールオーバー」や、クリックによってメニューを展開させる「プルダウン」という機能は、訪問者が情報を探す際に予想外の動きによって妨げとなったり、マウスを使うことができない人たち(例えば視覚障害者)にとって不便であるため、本学のサイトにはこれらの機能は設置されていません。



図 1: 本学サイトのトップページ

こうした点が評価された一方、調査時には存在していた、ゲートウェイ・ページ(日本語サイトと英語サイトの振り分けを行うページ)の存在が減点対象となりました。また、トップページ右側に配置されたバナーの数が多く評価を下げた原因の一つです。バナーは注目を引きたい情報に誘導する場合によく使われますが、多く配置しすぎると、かえって何が重要かがわかりにくくなり、まとめて無視される危険性があるためです。

3.2. サイト・ユーザビリティ

サイト全体が使いやすい構造になっているかどうかを評価する項目で、10点満点中7.5点でした。

本学サイトは、全てのページが同一のデザインで構成されており、多くの訪問者の視線を最初に集める位置である左上には大学のロゴ(サイトロゴ)がありその下には「グローバル・ナビゲーション」と呼ばれる、主要なページへのリンクが配置されています(図2)。



図2: サイトロゴとグローバル・ナビゲーション

このようにサイト内のページ・デザインを統一することで、例えば検索エンジンなどからトップページ以外にたどり着いた訪問者にとっても、そのページが富山大学のサイトであることを明確に伝えることができます。また、サイト内の様々なページを訪問者が閲覧する際、常に同じ位置にグローバル・ナビゲーションが在ることで、どのページからも主要なページへと容易に移動することが可能になり、使いやすい構造のサイトにすることができました。

しかし、サイトロゴからのリンク先が前項で述べたゲートウェイ・ページであったこと、グローバル・ナビゲーションのリンクが訪問前と訪問後で変化しないことなどが減点の対象となってしまいました。

3.3. メインコンテンツへのアクセス

受験生を中心にした、大学サイトがターゲットとする訪問者にとって関心が高いコンテンツについて、トップページから探しやすいかどうかを評価する項目で、10点満点中7.69点でした。

大学サイトの訪問者には、受験生・研究者・在学生など、さまざまな人たちが考えられますが、その中でも受験生は、大学としてもっとも重視すべき訪問者であるといえます。ここでは主として受験生を対象とした内容についての評価がなされました。

この項目では、入試情報・教育情報・就職情報・大学情報などの充実度が判定されました。本学サイトではおおよそこれらの情報を掲載できていたものの、例えば、入試日程に関する説明が見つけにくい場所にあったこと、各学部の年次別カリキュラムの説明が無かったことなどが減点の対象となりました。

3.4. アクセシビリティ

視覚障害者を中心に誰にでもサイトが使いやすいかどうかを評価する項目で、10点満点中7.89点でした。この点数は、全ての大学の中での最高点です。

大学サイトでは、サイトの内容を音声によって読み上げさせる必要がある視覚障害を持つ方、マウスを使うことができずキーボード操作だけでサイトを閲覧しなければならない視覚や肢体の障害を持つ方など、様々な訪問者を想定する必要があります。また、細かい字が読みにくいお年寄りや、携帯端末などの画像を読み込むことのできない環境で閲覧する人たちが訪問することも考えられます。

このため、本学サイトにおいては、例えばマウスの利用を前提とするFlashなどによる表現を避けたり、文字の大きさをブラウザの機能で変更することができるようにしたり、文字色と背景色の色差が色覚に障害のある方にとっても見えやすいようにするなどの対策を行ってきました。³⁾⁵⁾

また、ページに画像を配置する場合は、その画像を見ることができない人たちのために代替のテキスト(ALT属性といいます)を用意することが求められています。本学サイトでは、大多数の画像には適切な代替テキストが用意されていますが、しかし、ごく一部の画像では適切でなかったため、減点の対象となってしまうことが惜しまれます。

3.5. インタラクティブ

大学への訪問・問い合わせがしやすいかどうかを評価する項目で、本学サイトは満点の5点でした。

受験や出張などの目的で、実際に本学を訪問したい人たちがサイトを見る場合、大学の住所や電話番号

号だけではなく、大学までの交通機関や周辺地図といった、具体的な情報を期待していると考えられます。また、本学のように複数のキャンパスに学部等が分散している場合、どのキャンパスにどの学部があるかも明記する必要があります。

こうした観点を考慮して制作されたアクセスマップ・交通案内図・キャンパスマップ⁵⁾が本学サイトには掲載されています。また、本学に対して問い合わせを行いたい場合の連絡先を目的別に明記し、連絡手段として電話番号だけではなく、必要に応じて電子メール・アドレスも掲載されています。

これらの情報が記載されたページへは、グローバル・ナビゲーション同様、サイト内の全てのページからのリンクが作成されています。

3.6. プライバシーポリシー

サイト利用者が提供する個人情報について、大学の保護方針を評価する項目で、この項目も5点の満点という評価を受けました。

近年では個人情報保護に関する関心が高まってきていますが、本学サイトでは、ウェブを通して収集した個人情報の保護方針を「サイトのプライバシーポリシー」というページにまとめてあります。その内容には、個人情報の利用目的、管理体制、第三者へ提供する場合の理由などが含まれています。

4. 総合評価

以上の項目についての評価から得られたスコアを合計し、100点満点として採点したものが総合評価です。上位10大学のスコアを**表2**に示します。

本学サイトでは81.96点という評価を受けました。このスコアは、全200大学の平均スコアである47.45点と較べると高い評価を受けたこととなりますが、1～3位の各大学と比較すると「トップページ・ユーザビリティ」「サイト・ユーザビリティ」「メインコンテンツへのアクセス」の各項目でスコアに差がついたこととなります。

以上のように今回の調査から得られた客観的な評価を参考にし、さらに、利用者の皆さまからのご意見・ご要望等を真摯に受け止め、一層使いやすいサイトを目指し、今後とも努力してゆきたいと考えています。

総合順位	大学名	総合スコア	大学種類
1	徳島大学	89.19	国立
2	明治学院大学	84.53	私立
3	沖縄国際大学	84.01	私立
4	富山大学	81.96	国立
5	福岡工業大学	74.78	私立
6	静岡県立大学	73.95	公立
7	立正大学	73.41	私立
8	武蔵大学	72.81	私立
9	明海大学	71.42	私立
10	一橋大学	71.33	国立
全体平均	-	47.45	-

表2:『全国大学サイト・ユーザビリティ調査2008/2009』における上位10大学の総合スコアと全体の平均スコア

参考文献

- 1) 日経BPコンサルティング(2008): 全国大学サイト・ユーザビリティ調査2008/2009. 日経BPコンサルティング, 278pp.
- 2) 富山大学
<http://www.u-toyama.ac.jp/>
- 3) 遠山和大・内田並子・平井謙(2007): 富山大学ウェブサイトにおけるアクセシビリティ向上. 富山大学総合情報基盤センター広報, vol.4, 61-66.
- 4) 遠山和大・内田並子・平井謙(2008): 富山大学ウェブサイトにおけるユーザビリティ向上. 富山大学総合情報基盤センター広報, vol.5, 87-92.
- 5) 内田並子・遠山和大(2008): ユニバーサルデザインの観点を考慮した富山大学アクセスマップ. 富山大学総合情報基盤センター広報, vol.5, 93-96.
- 6) World Wide Web Consortium (W3C):
<http://www.w3.org/>
- 7) Web Accessibility Initiative (WAI):
<http://www.w3.org/WAI/>
- 8) 日本規格協会(2004): 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部:ウェブコンテンツ. 日本規格協会, 27pp.